

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年5月16日（火）

2 確認箇所

- (1) 濃縮水タンク（Cタンクエリア北側）
- (2) 濃縮廃液貯槽（H2タンクエリア西側）

3 確認項目

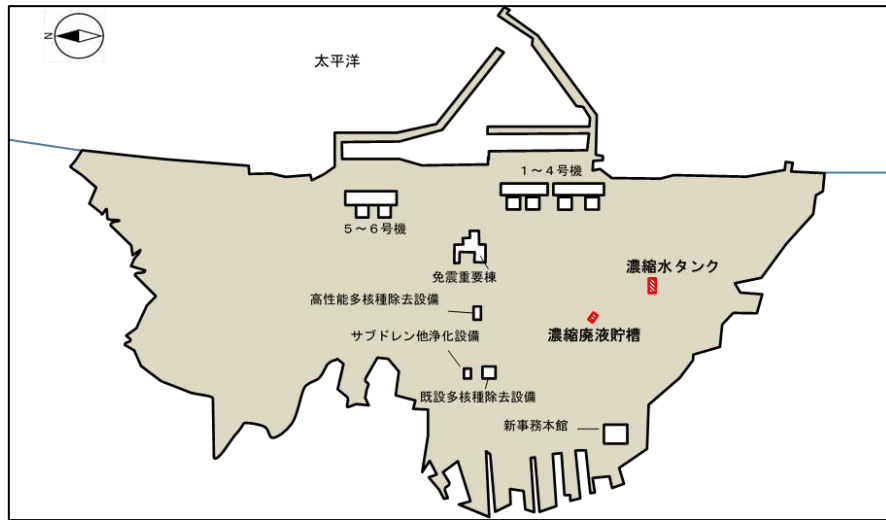
蒸発濃縮装置ノッチタンクの濃縮廃液移送

4 確認結果の概要

福島第一原子力発電所では震災当初、建屋滞留水を原子炉注水として再利用するための浄化設備の一部として、蒸発濃縮装置を使っていた。この蒸発濃縮装置は平成24（2012）年に運転が停止されているが、発生した濃縮廃液が構内の濃縮水タンク（ノッチタンク5基）に保管されている。

今回、濃縮廃液の漏えいリスク低減のため、濃縮水タンクから、構内の別の濃縮廃液貯槽（ブルータンク1基）に移送されることになったため、移送状況を確認した。

- ・濃縮水タンク周囲にはハウスが設置されていた。ハウスには局所排風機が設置されており、ハウス内のダストが周囲に拡散しないよう対策されていた。（写真1）
- ・濃縮水タンク周囲では、連続ダストモニタによりハウス内外の空气中放射性ダストの監視が行われていた。（写真1-2）（写真2）
- ・濃縮廃液を移送するための移送ホースが二重となっており、漏えい対策がされていた。（写真3-1）
- ・濃縮水タンク近辺には、濃縮廃液移送のために使われるトラックが駐車していた。なお、廃液移送作業自体は行われていなかった。（写真3-2）
- ・濃縮廃液貯槽（ブルータンク）の周囲には遮へい壁が設置されており、ブルータンクの上部にハウスが設置されていた。周囲にダストモニタが設置されていた。（写真4）
- ・東京電力によれば、移送される濃縮廃液について、濃縮廃液上澄み水は多核種除去設備により処理され、濃縮廃液スラリーは今後設置されるスラリー安定化処理設備にてフィルタープレスで処理する方針とのことである。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
濃縮水タンク周辺の状況(1)



(写真1-2)
濃縮水タンク周辺の状況(2)



(写真1-3)
濃縮水タンクハウスにおける局所排風機の状況



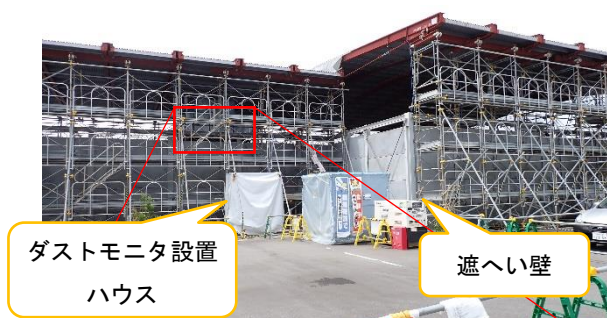
(写真2)
ダストモニタの状況



(写真3-1)
移送ホース (二重) の状況



(写真3-2)
移送トラックの状況



(写真4-1)
濃縮廃液貯槽 (ブルータンク)
周囲の状況



(写真4-2)
濃縮廃液貯槽 (ブルータンク)
上部のハウスの状況

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。